

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間

- 【題材】 ○第3学年 地域の人たちを支える仕事を調べよう (地域・福祉)
 ○第4学年 仕事図かんをつくろう (キャリア)
 ○第5学年 アースレスキュー (環境)
 ○第6学年 ふるさと広田探検隊 そして未来へ (地域・まちづくり)

【対象】 3～6年児童 88名

【実践の概要】

＜第3学年＞

身近にある福祉から学習課題を持ち、学習計画を立てた。次にデイサービスセンターに行き、職員から仕事の内容や仕事の際に心掛けていることを聞くとともに、お年寄りと交流したり、合唱を披露したりした。また、地区の生活支援相談員やコミュニティセンター職員に取材を行った。これらの活動をもとに、自分でできる福祉活動について考え、活動をまとめた。



デイサービスセンターで説明を聞く

＜第4学年＞

「仕事図かん」を作るという目的を持ち、学習計画を立てた。敬老会への参加をとおしたお年寄りとの関わり、保育園で保育士の体験をする幼児との関わり、漁協とアワビ種苗センター見学時の復興に携わる人との関わりをとおして、学んだことを「仕事図かん」にまとめていった。最後に自分の興味を持った仕事について調べて図鑑を完成させ、学級内で交流を行った。



保育園で保育士体験

＜第5学年＞

地域や世界の環境問題から共通課題「海を守る」を設定し、個人課題と学習計画を立てた。課題計画のために、森林と海との関係について学習したり、震災後の海の状況を調べたり、漁業に携わる人に復興状況について取材したりするなどの活動を行った。最後に課題についてまとめるとともに、学び方について振り返り、3学期の「環境レポート」づくりにつなげた。



漁業の復興状況を取材

＜第6学年＞

将来、自分が住みたい広田を考えるという課題を持ち、活動計画を立てた。震災の前と後の広田についてグループごとに調べてまとめ、交流した。次に将来の広田像を、交通・生活・楽しみの面からグループごとに調べたり話し合ったりしてまとめ、学級内で交流した。代表のグループは、児童朝会及び市教育委員会が主催する「未来に向けた意見発表会」で発表した。



未来に向けた意見発表会

【授業の展開】第4学年の単元後半の展開（全30時間のうち、第13～30時）

＜体験③＞ 第13～20時
復興に携わる人と関わる

- ①自分たちの身近な職業や漁業について興味を持つ。
- ②各家庭で聞き取り、「仕事図かん」に記入する。
- ③漁協・アワビ種苗センターの見学計画を立てる。
- ④漁協・アワビ種苗センターを見学する。
- ⑤分かったことを壁新聞にまとめる。（国語扱い）



＜仕事図かん②＞ 第21～29時
自分の興味を持った仕事について調べる

- ①興味を持った仕事について調べる見通しを持つ。
- ②自分の興味を持った仕事について調べる。
- ③「仕事図かん」にまとめる。
- ④完成した図鑑を交流する。



＜振り返り＞ 第30時

活動を振り返り、感想を交流する。

今、採れてるアワビは、ここで育てたものですか？

大きくなるまで3年ぐらいかかるから、津波で流されなくて残った天然アワビだよ。



アワビ種苗センターの見学

聞いてみよう。・なぜ、この仕事をえらんだか。・楽しいこと。・やりがい。・苦勞していること。・気を付けていること。他。
しんじのたがせつ住たくにいる人た遠くにひびみしている人おしよりなどが安心してくらせる新しい陸前高田を作るためにかんば、ている。たくさんのおし民の人たちとふれあうことができるのでとても、やりがいをかんじている。

市役所の「仕事図かん」から抜粋

【各学年の児童の感想】 ※文章は一部を抜粋したものもある。

コミュニティーセンターの蒲生さんは、地域の人のためになっているから、かなしい時はないそうで、いつもえがおでおもしろい人だと思いました。これからわたしも、人のねがいをかなえてあげたいと思います。（3年生）

漁協では、漁業の手伝いだけでなく、生活の手伝いなどもしていることをはじめて知りました。「わかしお石けん」が売られていたけど、ふつうの石けんより海にやさしいので、海をよごさなくていいと思いました。

今、広田には、あまり働く場所とか遊ぶ場所がないから、私たちが大人になったら、市場や産直や、子どもたちがおもいきり遊べる広場みたいなのがあればいいと思います。広田は、店とか住宅などが少ないけれど、その分、広い海があるから、その海を生かして、広田をにぎわわせてほしいです。今よりたくさん建物が建っても、海や山などは変えないでほしいです。やっぱり、広田は自然が一番だからです。（6年生）

震災前の海に戻りたいと思いました。自分のできる範囲で浜をよごさないようにしていけば、海は自分で元に戻る力があるそうなので、ぼくも復興の役に立てるかもしれないと思います。（5年生）

【まとめ】 ○…成果 △…課題

- 学年ごとにテーマは異なるが、地域の人、物、事に関わることで、地域の復興の様子について理解することができた。また、これらの活動をとおして、ボランティアや環境保全に関する意識が高まり、地域のために何かしたいという気持ちを持たせることができた。
- △ 被災地であり、心のケアが必要な児童もいることから、海に関わる活動場所や津波に関する資料の取り扱い方には十分に留意しながら指導する必要があった。